

平成29年度 評価・反省

幼保連携型認定こども園 ゆたか保育園

	たんぽぽ(0歳児)		ちゅうりっぷ(1歳児)		ばら(2歳児)
生活とあそび	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月齢の差が有るので、個々の月齢に沿った生活リズムで過ごし、それぞれの月齢の応じた発達を段階を踏みながら、順調に成長出来たと思う。</li> <li>・体の使い方を知り、経験出来るよう保育者が見本となり、楽しさを共有することで発達を促してきた。発達の補助となるようなあそびや活動を取り入れて活かせたと思う。しかし、走る・投げる・跳ねる等もっと十分に行えると良かった。</li> </ul>	生活とあそび	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月齢や発達の違いはあったが、一人遊びを楽しみながらも友達存在を意識し、少しずつ関わろうとする姿が、見られるようになった。保育者が仲立ちすることで、友達同士で同じ玩具を楽しみ 笑い合う姿や、友達が泣いていると頭を撫でたりと様々な関わりを持つようとする姿も増えてきた。</li> <li>・生活の中で給食前に手を洗うタオルをしまう。など流れが分かるようになり保育者が援助する作業を真似て自分で片づけ等も行うようになってきた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷物の整理や片づけ等、マークを貼り自分で行えるように関わりながら行って来た。</li> <li>・月齢差が大きく、整列をして待つことが出来なかった為、朝の体操前など男女で列をわけ隣の友達が覚えられるように進めてきた。</li> <li>・活動の中で様々な用具を使用することで、自分の意思で遊びを進める様になった。</li> </ul>
保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おたより帳や会話等 家庭との連携を密にすることで、久しぶりの子育てをする保護者や育児不安を感じる保護者への援助となったと思う。</li> <li>・一時保育・休日保育を行っているので、週3回利用されている方が多かった。</li> </ul>	排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月齢や一人一人の発達に合わせ殆どの子がトイレに行き便座にすわれるようになった。トイレで排尿できるようになった子や、おむつを履いているときに不快感を知らせることが出来る子もいた。保育者間で連携し一人一人の排尿の感覚を把握することが出来た。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月当初はオムツであったが、排泄の際にトイレへ誘導することで、少しずつパンツへの意欲が感じられた。月齢差はあったが、活動の前後や一人一人の様子を伺いこまめに声掛けをし、トイレでの成功に繋がりにパンツでの生活に自信を持って過ごすことが出来るようになってきた。</li> <li>・トイレの使い方を再度伝える事や、保護者と連携をとることで、無理なく進められた。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月齢に合わせて離乳食など、保護者の方と話し合いながら進めていくことが出来た。</li> <li>・苦手な食べ物に対して、励ましたり褒めたりすることで、無理なく食べられ楽しい食事の雰囲気を作れた。自分で食べる喜びが育っている様子であった。</li> <li>・旬の食べ物や寿司・うどん体験等食材に触れることが出来て良かった。</li> </ul>	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めは手づかみ食べの子やよく噛まずに食べてしまう子もいた為、一人一人に合わせスプーンに移行できるように援助してきた。現在スプーンの正しい持ち方ができるように援助している。</li> <li>・栄養士の協力の元 季節の野菜を見る機会を設けたり、実際に触れることができ、野菜の名前を楽しく覚えることができた。同時に、野菜を食べられるようになってきた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の野菜に実際に触れたりする事で名前を覚えたり、野菜への興味も出てきたり好き嫌いなく食べようとする意欲も出てきた。</li> <li>・簡単なクッキングを通し、作る楽しさや、出来た喜び、自分で食べておいしいかったという喜びを感じる事が出来た。</li> <li>・箸指導を通して、正しい橋の持ち方を常に意識しながら食べる姿が見られるようになった。</li> </ul>
健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚着の子が多かったので、衣服の調整をこまめに行った。</li> <li>・1年を通して感染症にかかった時期もあった。その都度加湿、換気は意識して行った。</li> <li>・SIDS予防の赤ちゃんセンサーや午睡チェックは、必ず行った。</li> <li>・探索活動の範囲が広い為、見守りや目配り等安全配慮を行った。</li> </ul>	健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達一人一人を見守り、戸外遊びでの、遊具からの転倒や誤飲等の無いよう特に注意を払い保育を進めてきた。しかし年度末になると、保育者の言葉を聞いて行動する子と、思うままに行動してしまう子どもとの差が出てくる為、特に月齢の高い子ども達の行動の仕方に目を向け更に安全面での配慮をしていく必要があると反省し、クラスでも話し合った。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・虫歯予防の歯磨き、感染予防の手洗い等のうがいの習慣が身につくように進めてきた。</li> <li>・散歩等の際に、交通ルールを守り危険な交差点・横断歩道などの指導を行い実践してきた。</li> <li>・子ども達の行動を予測して、その日の活動において安全な環境であるかを念頭に置いて接していた。</li> </ul>
行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や発表会では、年齢に合った子どもたちの興味を中心に内容を考えたので、親子で楽しく参加していた。</li> <li>・もちつき、やきいも大会等 不思議そうに興味を示していた。</li> <li>・月齢差もあった為、月齢によっては参加の少ない行事があった。</li> </ul>	保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のお迎えの際に、その日にあった出来事の話を通して、子どもの成長を伝え共通理解の元で保育をできるように、心掛けてきた。</li> <li>・子どもの様子、発育状況など保護者の相談は様々であったが、その都度担任間で話し合いながらより良い対応を心掛けた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時、連絡帳、ブログ、クラスだより等を通して、日々取り組み子ども達の様子を伝え、保護者の要望や気付き等を受け止め、日々の保育につなげていくようにした。</li> <li>・子育てに悩んでいる親の気持ちに寄り添い、相談相手になりながら子育ての見通しが出来るようにアドバイスしたり、子どもの育ちの筋道を伝えたり、その育ちに見合った関わり方や援助が出来るよう親を励まし支えていくようにした。日頃からの親とのコミュニケーションの積み重ねが大切だと感じる。</li> </ul>
全体として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児は、1年の成長が著しいので変化を感じられた1年であった。保育者との信頼関係をしっかり築けた。</li> <li>・月齢差の大きいクラスなので、自然に小さい子に対する思いやり（自分がされてきたことをしてあげようとする）姿が見られた。高月齢の子たちが、満足出来る活動や安定出来る環境が、必要だと感じられた。</li> <li>・進級にあたり、トイレに興味を持ったり、牛乳や食事形態をすすめてくれた。靴の出し入れ等 生活習慣をもう少し浸透させたかった。</li> </ul>	全体として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数担任である為必要な連絡や子どもの情報等について、こまめに伝達することが、重要だった。担任全員が、共通理解することは難しいが、大切なことだと思う。</li> <li>・次年度へ進級すると園舎が変わり、トイレの使い方、ロッカー等、環境に変化がある為、慣れている3月中に教えて行けることは、無理なく生活の中で教えていくことが必要。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの子がオムツからパンツへ移行出来、言葉を使い友達と関わり遊ぶ姿も増え、一日を安定して過ごせるようになってきた。個々の発達段階を考慮し、担任間でも共通理解の元、連携出来ていた為、子供達の成長へと繋げて行く事が出来ていたと思う。</li> <li>・3歳児検診、予防接種、必要に応じて医療機関への受診を勧めた。</li> <li>・発達に心配が有る等保護者が不安に思っているケースもあり、個別に相談に応じるようにした。</li> <li>・病児保育の申請を勧めなかった事を、反省点として次年度は新年度から、説明し勧めていきたい。</li> </ul>

平成29年度 評価・反省

幼保連携型認定こども園 ゆたか保育園

	ゆり組(3歳児)	さくら(4歳児)	すみれ(5歳児)
<b>養護</b> (生命の保持、情緒の安定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣が少しずつ身につくようになり、身の回りの事が、自ら行えるようになった。</li> <li>自分の思いを伝えられるよう普段から、遊びの中で思いを伝えられるよう工夫した事で、思いを伝えようとする姿が見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣が身に付き、自ら考えて行動出来る事が増えた。</li> <li>普段から自分の事だけではなく、周りの事も見るように言葉掛けをする事により、少しずつ相手の気持ちを考えたり、自分の意見だけを押し付けることが少なくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションをとる中で、意志や思いを伝える必要性を理解し、子ども達自身の関わりの中でも自発的に知らせようとする姿勢が見られるようになる。</li> <li>遊びの中で転び擦り傷を作る園児が多く、注意に欠ける部分があった。</li> </ul>
<b>教育</b> (健康・人間関係・環境・言葉・表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団遊びやグループ活動を通して、友達との関わることの楽しさや、友達と協力する楽しさを感じられるようになった。</li> <li>ハサミやのりの使い方を理解し、少し難しい製作にも取り組めるようになってきた。</li> <li>文字に興味を示すようになり、自分の名前のひらがなを覚えられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会などの行事を通し、友達と協力することや皆で同じ目標に向かって努力する楽しさを味わうことが出来た。</li> <li>保育者が言葉を掛けたり、子どもの姿を認めたりしたことで、自ら周囲の人に、積極的に挨拶をするようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名練習を通し、書き順や学びの基礎をつくることが出来た。</li> <li>運動会・発表会の行事の中で様々なことを挑戦し、五感をつかった表現方法を知ることが出来た。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旬の野菜についてや野菜の成長、簡単クッキングを通して、実際に触れたり、体験することにより食に対する興味関心を持つことが出来た。又食べる意欲や作ってくれる方の感謝の気持ちを持つことが出来た。</li> <li>箸指導では、正しい箸の持ち方・動かし方を習い正しく持つ事・こぼさず食べる事を意識しながら食べる姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いや箸の持ち方など、栄養士の先生が直接教えてくれることで、子ども達も興味を持って取り組めたり、普段から意識するようになった。</li> <li>クッキングなどを通し、色々な食材に触れられ、体験をする事が出来て、子ども達もとても楽しめていた。</li> <li>行事食も沢山出してもらい、話のきっかけにもなりとても良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育指導の中では、旬の野菜を知ったり、栄養士の方による指導により手洗い・うがいなど日々の中で繰り返し取り組む姿があった。</li> <li>食べ物が出来るまでの経過やうどんが出来るまでの手順など、知識を得ながら食べるキッカケとなった。</li> </ul>
<b>健康・安全</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい手洗いの仕方を習慣づけ感染症対策を行ったが、感染症にかかる子が多く、感染拡大を防ぐ事が出来なかった。</li> <li>交通安全週間で、交通ルールについて学んだ事により、正しい道路の渡り方について、理解することが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>うがい・手洗いを行っていたが、感染症の拡大を防ぐことが出来なかった。</li> <li>交通安全週間や園外に出た際に、正しい道の渡り方や危険な箇所などを考えたことで、自分達で安全を意識して道路を歩く事が出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルールを理解し、実践をしながら行えるようになった。</li> <li>就学前では、横断歩道の渡り方や自分で確認することの必要性を知らせ、子ども自身が少しずつ認識するようになってきた。</li> </ul>
<b>保護者支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>降園時に、保護者から相談を受けたり、コミュニケーションを図る事で対応し、保護者の悩みを改善する事が出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスだよりやブログを通して、保育園での子どもの姿を伝えることが出来た。</li> <li>育児や発達の面での相談を受け、悩みを一緒に共有し対応することで改善や、今後の対応、関わり方などについて話し合い進める事が出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育中での様子、行事に取り組む時の姿勢等保護者に伝えたり、共に子育てをする意識をもち共通理解を図ることができた。</li> </ul>
<b>異年齢児の関わり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年長児と一緒に、マラソンや畑へ散歩に行き遊ぶ事があったが、他のクラスとの交流する機会があまりなかったので、計画をし関わりを持てば良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マラソンや畑散策を通し年長児と多く関わりを持つことが出来たが、他の異年齢児との交流を持つことが出来なかったため、職員間で話し合い、交流する機会を増やせば良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年下に子に興味をもち、簡単な手伝いなど率先して行う姿があり、関わりの時間が多くあった。</li> </ul>
<b>全体として</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩へ行く機会を多く取り入れ、季節ごとの自然に触れたり、道路の歩き方について、学ぶ事が出来た。</li> <li>ルールや約束を遊びの中で伝えていく事により、物の貸し借りのトラブルが少なくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で時計を意識させることで、時計を見て行動したり、数字に興味を持つきっかけとなった。</li> <li>トラブルなどの際、自分が悪いと理解はしているが、誤魔化したり、他の子のせいにしたりする姿が見られたので改善していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で自分の意志をしっかり伝え、少しずつ相手の気持ちにも寄り添いながら過ごす事が出来た。</li> <li>日々、挨拶など率先して行うように伝えていたが、自発的に出来る機会が少なく感じたので積極的に伝えるよう改善して行きたい。</li> </ul>